

新日本海新聞スポーツ大賞

平成20年度中にスポーツの分野で優れた功績のあった個人や団体に贈られる「新日本海新聞スポーツ大賞」の表彰が、2月23日、役場法勝寺庁舎で行われました。

南部町からは、最優秀賞を鳥取県社会人サッカー選手権などで優秀な成績を収めた南部町体育協会サッカー部キルシェン、奨励賞を陸上中距離走で優秀な成績を収めた白川絵里さん(金田・鳥取中央育英高3年)が受賞されました。白川さんは今年度、全国高校駅伝に出場するという小学生からの目標を叶え「次は大学駅伝で走りたい」と新たな目標を話されました。



白川さん(右)とキルシェンの杉谷さん(左)

女流陶芸 朝日新聞社賞受賞



トロフィーを手にする安藤さん

毎年11月に京都市美術館で開催される陶芸の公募展「女流陶芸」で、法勝寺松花窯の安藤愉理さんが朝日新聞社賞を受賞されました。受賞作は「林檎(布)林檎(線)」。

安藤さんは「初めての応募だったので、受賞にはびっくりしました。自分らしい作品で名が残るように頑張りたい」と将来の目標を話されました。

父親の松花窯4代目の安藤真澄さんは「自分とは違う感覚で新しいものを取り入れ、法勝寺焼の伝統を継いでほしい」と期待を込め語られました。

地域の未来を考える

2月16日、総合福祉センターいこい荘で地域づくり講演会(主催・南部町)が行われました。島根大学教育学部准教授の作野広和さんが「地域運営のあり方と地域づくりの未来像」と題した講演を行い、参加した約100人が地域の未来を考えました。作野さんは「地域づくりを難しく考えず、地域の道が綺麗に掃除してある」などちょっとした自慢を共有していくことが、価値の発見に繋がる」と話されました。講演後の質疑応答では「お話を聞いて新たな発見があった」という発言もあり、地域活動への意欲の高まりが感じられました。



講演する作野さん

グリーンパーク社員が清掃活動



側溝のごみを取り除く

グリーンパーク大山ゴルフ倶楽部と南部町役場が2月20日、鶴田周辺で清掃活動に取り組みました。活動は今回初めての取り組み。グリーンパークの社員、町の緊急雇用対策の町林道作業員など10人が参加。町道諸木鶴田線の道沿いで、ごみ拾いに加えて側溝の掃除なども行われました。清掃に参加したグリーンパーク大山支配人の安達さんは「自分達で出来ることは自分達でやらなくてはならない。道が綺麗になると気持ちよく通行でき、交通安全にも繋がります」と活動の目的を話されました。